

教科書： 「高校生の美術1」（日本文教出版）

学習目標

本校の美術科の目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。
感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

第4学年の目標

- ・前期課程の学習を基に主体的に取り組み、美術を愛好する心情を深め、心豊かに創造する態度を培う。
- ・対象を見つめて、想像力豊かに感じ取る力、多角的・総合的な見方や考え方を培い、発想し構想する力を高め、表現方法を工夫して現実化・具体化する能力を伸長する。
- ・自然の造形や美術作品、文化遺産などについて理解を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
- ・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫、目的と機能との調和が生み出す洗練された美しさなどを感じ取り、作品に対する価値意識をもって批評し合うなどして、意識を高め合い幅広い作品への理解や共感を深める。
- ・美術作品に取り入れられている自然のよさや、身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り安らぎや自然との共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。
- ・作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わう。

学習方法

- ・題材の理解（課題のねらい、留意事項の確認）
- ・必要な用具、材料等の準備
- ・表現（作品制作）や鑑賞
- ・まとめ、片付け

評価の観点・方法

観点① 美術への関心・意欲・態度	美術に対する関心をもち、進んで表現や鑑賞を行い、最後まで粘り強くていねいに完成しようと取り組もうとしているか。				
観点② 発想や構想の能力	それぞれの題材に対し、感性や想像力を働かせて発想し、良さや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練り課題を解決しているか。				
観点③ 創造的な技能	感性や造形感覚を働かせ、素材や表現技法を理解し、自分の表現意図に応じて創意工夫し、創造的な表現を効果的な方法で行うことが出来ているか。				
観点④ 鑑賞の能力	感性や想像力を働かせ自分や他の人が表現した作品等をじっくりと鑑賞し、作品の良さや工夫を理解することが出来ているか。				
評価の方法\観点		①	②	③	④
授業観察		◎	○	○	◎
ワークシート		○	◎	◎	◎
作品		◎	◎	◎	○

学習内容

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項・他
1 学 期	・美術の文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化に対する関心を高める。 ・感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成する。 ・表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練る。 ・意図に応じて材料や用具の特性を活かす。	オリエンテーション 鑑賞 (1) 様々な美術的文化遺産 表現（絵・彫刻） 鑑賞 「描く活動／造る活動」 (1) デッサン【鉛筆】 (2) 造る活動【彫刻】	・自然物からその形の成り立ちと、モチーフを構成する要素を感じ取る。
2 学 期	・造形的な見方や考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中にある美術や美術文化に触れる。 ・造形的視点を豊かにするために必要な知識を身に着け、表現形式の特性を理解し、形体、色彩、構成などを工夫して総合的な創造的表現の構想を練る。 ・意図に応じて材料や用具を活用する。 ・表現方法を工夫し、主題を追求して表現すること。美術文化について理解を深めること。	表現（デザイン・工芸） 鑑賞 「描く活動」 (1) 構成作品の制作 表現（絵・彫刻） 鑑賞 「描く活動」 (1) あそびをつくる 絵本制作 (2) 作品鑑賞 相互評価	・表現の方向性を見極め、何をどう伝えるのか考えて制作する。
3 学 期	・作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取る。 ・言葉で考えを整理し、作品について評価し合いながら、自己や他者の表現について理解を深める。	表現（デザイン・工芸） 鑑賞 「造る活動」 (1) あそびをつくる 木のおもちゃ制作 (2) 作品鑑賞 相互評価	・ものづくりと環境とのかかわり、また安心や安全などの要素の大切さを考える。

学習のアドバイス

- ・課題の内容をしっかりと把握しましょう。
- ・様々な方向から考えをめぐらし、完成のイメージを持ちましょう。
- ・作品の制作に関連して、必要な技法や用具の扱いを正しく学び、完成まで取り組みましょう。
- ・日々の生活の中にある美術を意識しましょう。